

ほか かわ ちが うじがわ せたがわ
他の川とはちょっと違う 宇治川と瀬田川

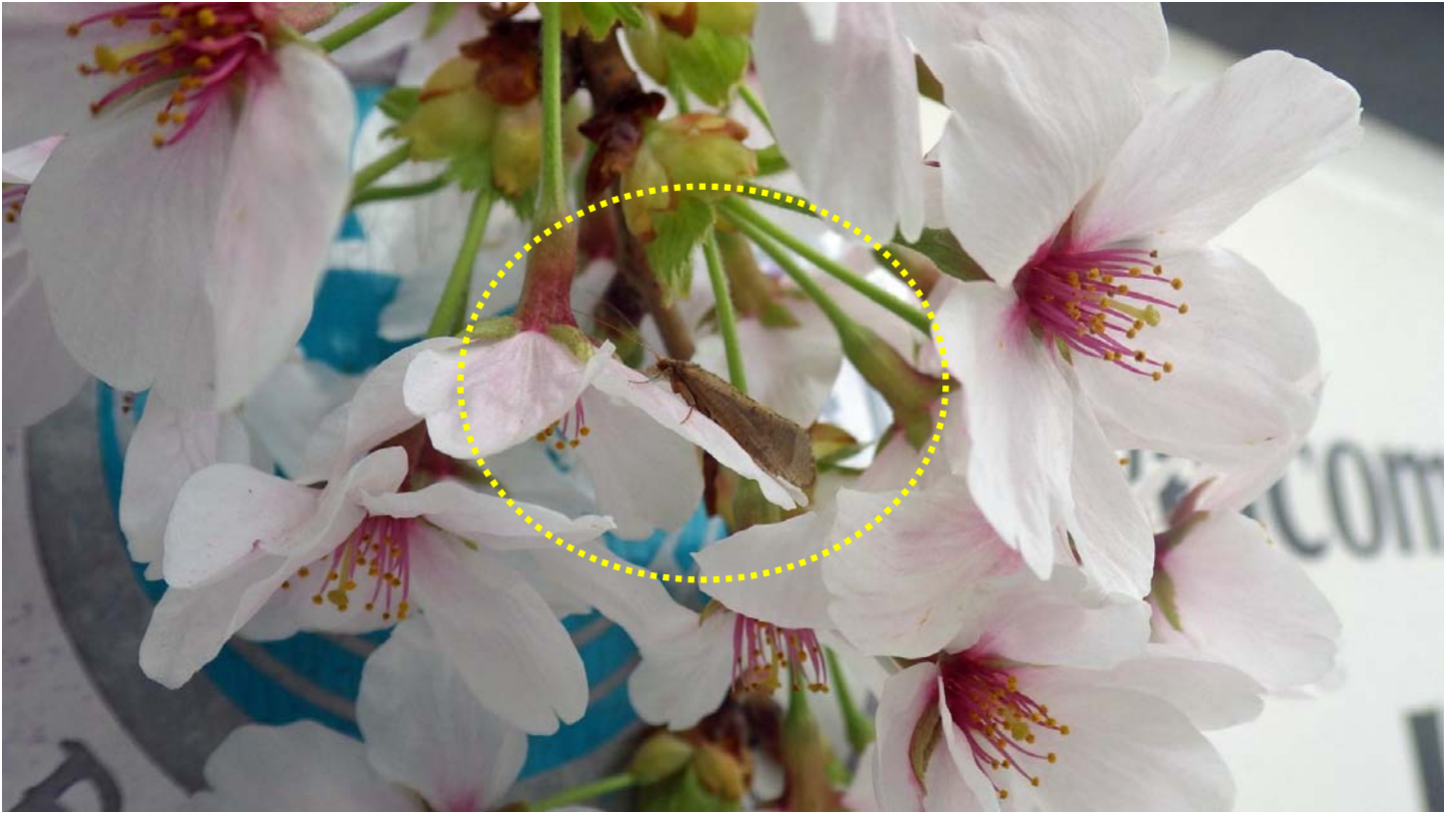
ナカハラシマトビケラ

戦後に研究を進めた鉄道技師の中原さんの名がついた
それまではセタ(瀬田)シマトビケラという名だった

学名 : *Hydropsyche setensis*

ナカハラシマトビケラは日本の川ならどこにでもいるが
うじがわ せたがわ ほか かわ ちが とくちょう
宇治川と瀬田川では他の川とは違った特徴がある。

① さくら かいが 桜の開花とともにあらわれる

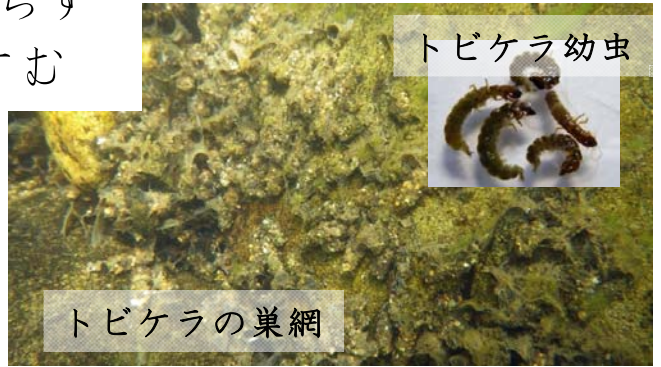
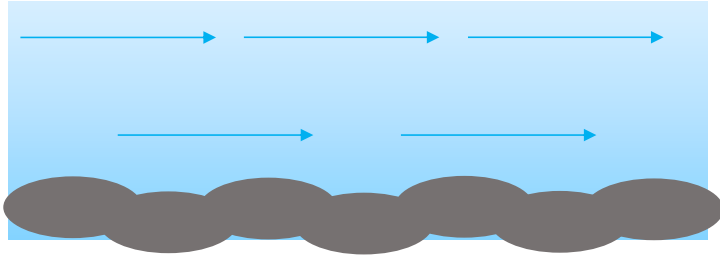


うじがわ かつ お
宇治川では3月終わりからみられる
ほかの川では5月になってから

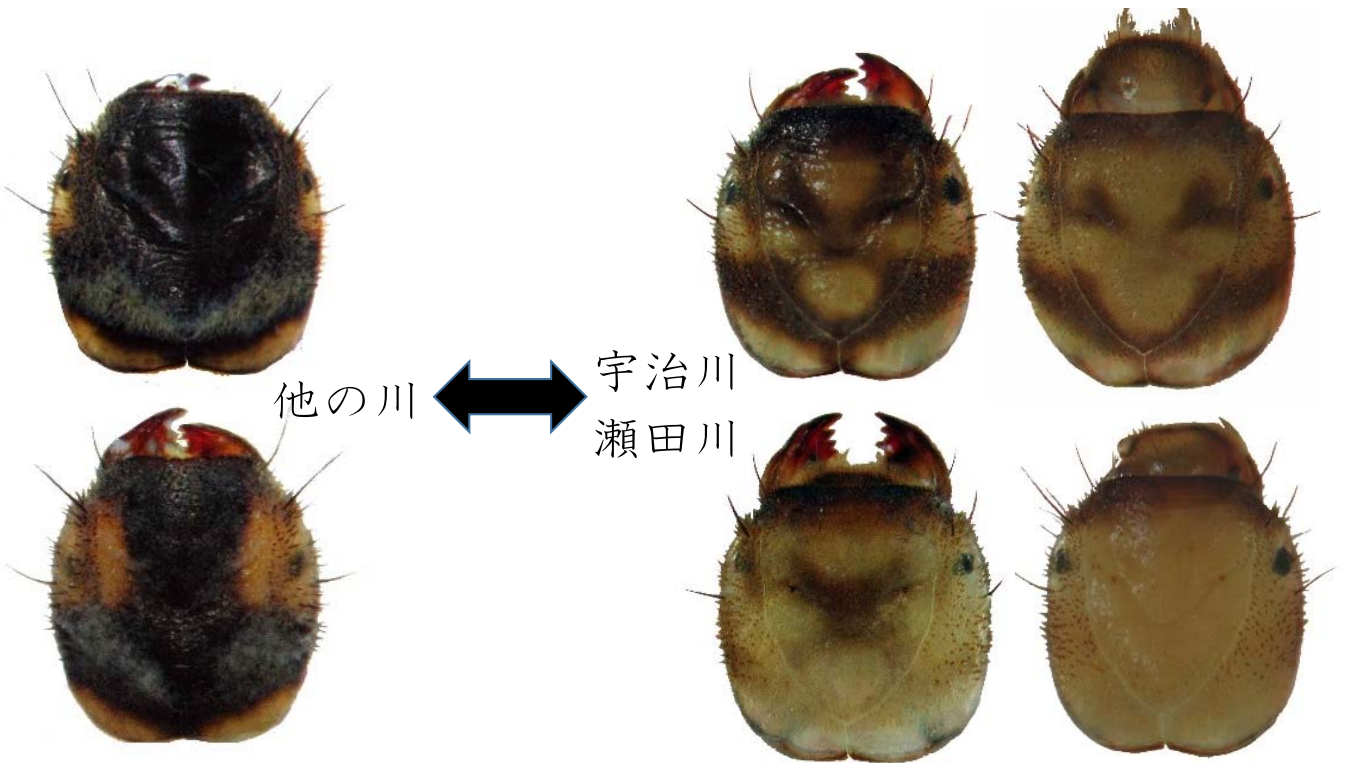
さくら じき と むし
桜の時期に飛ぶ虫はほかにはいなく
「サクラチョウ」とよばれる

② 幼虫の頭の色があかるい

幼虫は川の流のはい石底でくらす
 砂粒でできた巣網の中に1匹ずつすむ



幼虫の頭はふつう黒いが、宇治川と瀬田川では黄色くあかるい



③ 琵琶湖とともに生まれた

科学的にしらべると
 瀬田・宇治川と他の川のナカハラは
 遺伝的に40万年以上はなれている

琵琶湖が出来たのもそれくらい前
 つまり、ここのナカハラは琵琶湖とともに
 生まれた古くからの宇治川の住人



※縄文人が日本に住みついたのはたかだか1万年前 遺伝的に40万年はなれていても別の種にはならない